

# 豊かな人間性を育てるための視聴覚教材や

## 教育機器の活用はどうあればよいか

視聴覚教育研究会

### I. 研究について

#### 1. 研究のねらい

視聴覚教育研究会では、「豊かな人間性を育てるための視聴覚教材や教育機器の活用はどうあればよいか」をテーマに研修を重ねている。授業のねらいに迫る教材・機器の活用のあり方を探ることは、本会の会員のみならず、授業に臨むすべての教職員にとって必要不可欠からざる課題である。

児童生徒の学習への意欲を引き出し、興味・関心を高め、理解の定着を助け表現力や創造性を高めるために、視聴覚教材や教育機器を効果的に活用していくことは、本会の大きな課題である。

今年度もこれまでの研究と同様に、授業で勝負、授業のねらい達成の一助としての教材機器の活用のスタンスを明確にし、研究を進めた。

#### 2. 研究の方法

本会では研修が会員の思いや願いを反映して進められるよう組織の再編成を一昨年度実施した。今年度からは部門ごとに会議を開催し、会員が参画できる組織運営をめざした。その結果「研究部」「研修部」「広報部」のそれぞれで特色のある活動が展開された。

#### 研究部の取り組み

##### 1) 会場校との連携

研究会を会場校に任せきりにならないよう、事前校内研究会や指導案検討会、また打ち合わせなどには積極的に参加するようにした。

##### 2) 秋季大会での研究協議会の工夫

授業を提示してくださった先生方に感謝の意味を込めて活発な意見交流の場にしよう

と付箋紙を使った少人数ワークショップ形式の協議会を実施した。会員のアンケートからは、「研究視点に沿った活発な意見交換ができ有意義な研修だった。」「参加したという達成感があった。」など好評だった。

#### 研修部の取り組み

メディアの多様化と会員個々の研修へのニーズが多岐にわたる現状において、機器の操作スキルの向上とともに、それらの機器の最新情報を知ることは必要不可欠となっている。

本年度は、教材・教具を開発している企業にもお願いし、どのように授業に生かせるのかを視点として以下の3つの研修会を開催した。

プロジェクターと電子黒板、タブレットと電子黒板など視聴覚機器を組み合わせることで授業のねらい達成に大きな役割を果たすことが分かった。

##### 1) 春季大会での研修(4月26日)

「机にも映せる！？最新の電子黒板」

講師：エプソン仙台営業所

田中康一郎氏

##### 2) 夏季研修(7月26日)

「オフィスソフトの活用」

講師：アイネックス 佐藤幸子氏

##### 3) 秋季大会での研修(10月29日)

「タブレットを使用した授業実践例」

講師：シャープビジネスソリューション

永谷幸久氏、宮原佐和氏

#### 広報部の取り組み

##### 1) 会報「ちゃんねる」の明確な役割分担

今年度は発行時期やその内容、担当を年度当初に計画を立てて会報の発行に取り組んだ。会員に必要な情報を届けられるよう尽力した。

## 2)共有データベースの構築の試み

必要な情報を必要な時に取り出せるように、共有データベースの構築に取り組んでいる。これが完成すれば、視聴覚教育研究会のデータや会報「ちゃんねる」の閲覧、会員が作った教材データの活用などが可能となる。

## 3. 研究大会

大仙市立藤木小学校、同大曲南中学校を会場に実り多い研究会を開催することができた。会員に提示された授業は、ねらいに迫るために視聴覚機器を効果的に使用しており、我々会員に多くのことを示唆してくれた。

2年間に渡り、研究にご尽力された2校には深く感謝申し上げたい。

### 藤木小学校研究主題

「自分で考え、表現し、高め合う  
『藤木っ子』の育成をめざして」

### 4年 総合的な学習の時間

「1/2成人をお祝いしよう」

将来の生き方や夢を具体的に持たせるために、身近な大人が子どもの頃どんな夢を持っていたのかをビデオで提示した。地域で活躍している大人が子どもの頃どんな夢を持っていたかがはっきりと



分かるビデオの提示は会員に多くの事を示唆してくれた。

### 5年 体育「跳び箱運動」

様々な場を設定し、たくさんの視聴覚機器を活用して跳び箱を跳ばせる工夫は会員の研修を深めてくれた。ビデオ機器の「おいかげ再生」



により自分の跳んでいる様子を客観的に分析することができるなどねらいに迫る機器の使い方を

知ることができた。

### 大曲南中学校研究主題

「主体的に学び、よりよく

『思考』『判断』『表現』できる生徒の育成  
～生徒の「気づき」が高まり、「問い」が  
とびかう授業づくりを通して～

### 1年体育「武道(剣道)」

剣道の模擬試合を生徒自身が作りあげられる



よう、その試合の仕方をビデオ映像で理解させていた。ビデオを見せることで生徒の「気づき」が高まり「問い」

がとびかった。自校の研究課題に迫る視聴覚機器の活用の仕方は大いに参考になった。

## II. 関連事業について

本会の前会長である高山校長先生から、「あゆみ つなぐ」と題し、秋季大会でご講演をいただいた。

本会の歴史や視聴覚教育の意義やねらい、そして先生が開発された視聴覚教材の紹介があった。1時間を越える貴重なお話は、我々会員の進むべき方向を示唆してくださった。



長年にわたり本会にご尽力くださった高山校長先生に感謝申し上げます。